

小学部 算数科 学習指導案

日 時：令和6年7月10日（水）

10：40～11：25

場 所：小学部棟 プレイルーム

対 象：Dグループ 4名

授業者：中島 拓也

- 1 題材名 『附特マーケット』で、注文に応じて乗法や除法で計算したり、商品の長さを測ったりして、商品をそろえたり、在庫を管理したりしよう

2 児童の実態

児童の実態	
D	<p>【一般的な実態】 CA：9</p> <ul style="list-style-type: none"> 得点を競う遊びの中で、加法で立式して計算し、合計点を出す。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> できるようになった課題でも、内容の異なる課題を織り交ぜて出題すると、間違ふことがある。 仕方や手順を簡潔な言葉で順を追って説明すると、一連の活動に取り組む。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題が変わると、「手伝ってください」などと教師に言うことがある。 友だちと話し合い、役割を分担して課題に取り組む。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのある加法(和が19以下)と繰り下がりのある減法(被減数が20以下)の文章題を読んで立式し、正しい答えを求めることができる。 クッキーを2個ずつ置いた皿を5枚提示し、クッキーが2個ずつ乗っている皿の枚数を問うと「5枚」と答え、クッキーの総数を問うと「10(個)」と答えることができる。 九九の式がランダムに出題されたプリントを提示して答えを書くように伝え、正しい答えを書く。 クッキーが3個ずつ乗った皿が4枚あるイラストを提示し、クッキーの総数を求めるための式を書くことを伝え、『$6+6=12$、$12\div 4=$』と書く。 10個のクッキーと6枚の皿の中から、2×3や5×2の式を提示し、クッキーと皿で式の意味を表すように伝え、2枚の皿を取った後、一方の皿に2(5)個のクッキーを、もう一方の皿に3(2)個のクッキーを置く。
H	<p>【一般的な実態】 CA：11</p> <ul style="list-style-type: none"> 休み時間に四則計算の計算アプリを操作する。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕方や手順を視覚的に示して繰り返し取り組むと、最後まで活動に取り組むようになる。 教師の問い方や課題の提示の仕方が変わると、「来てください」などと教師を呼んだり、手が止まったりすることがある。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 誤答をしても、正答するまで取り組む。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 定規やものさしで●mm、▲cm、■cm◆mmの長さを測って書き表すことができる。 ●▲mmの長さを●cm▲mmに換算して書き表すことができる。 ●cm▲mmの長さを●▲mmに換算して書き表すことができる。 1mが何cmか問うと、「10cm」と表記し、11mが何cmか問うと、「わかりません」と答える。 加法と減法、乗法の文章題を読んで立式し、正しい答えを求めることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> 100cm、100mm、100mのうち、最も長いものを選んで答えるように伝え、「100cm」と答える。

3 題材目標

児童	題材目標		学習指導要領の扱う内容
D	知	『附特マーケット』で、注文に応じて商品をそろえる時、乗法の式が表す意味や被乗数の数量と乗数の数量との関係がわかり、注文票を読み“●個ずつ×いくつ分＝”と立式し、商品の総数を求める	小学校 第2学年 A 数と計算 【知識及び技能】 (3) 乗法 ア (ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。 ア (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。 【学びに向かう力・人間性等】 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	思	注文票の内容に応じて商品の総数を求める時、商品一つ分に含まれる数量を考え、用いる式を判断し、商品が同じ数量でまとまっているときは乗法で立式し、商品が異なる数量でまとまっているときは加法で立式し、答えを求める	
	学	注文票の内容に応じて立式し、答えを求める課題に繰り返し正しく取り組む	
H	知	『附特マーケット』で、在庫の商品の長さを調べる時、単位が表す長さがわかり、cm表記の計器を使って商品の長さを測り、●m▲■cmと書き表す	小学校 第2学年 C 測定 【知識及び技能】 ア (ア) 長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートルcm）、メートル（m）及びかさの単位（mL）、デシリットル（dL）、リットル（L）について知り、測定の意味を理解すること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ (イ) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。 【学びに向かう力・人間性等】 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	思	目的に応じて商品の長さを調べる時、求める長さについて考え、用いる式と単位を判断し、在庫品の元の長さと同じ長さの単位をそろえて減法で立式し、在庫品の残りの長さを書き表したり、乗法で立式し、商品の全長に応じた単位を用いて長さを書き表したりする	
	学	目的に応じて商品の長さを調べる課題に繰り返し正しく取り組む	

4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載

5 本時案（全8時間の3時間目）



- (1) 題目 『附特マーケット』で、注文の内容に応じて乗法や除法で立式して商品の総数や一人あたりの個数を求めたり、在庫の商品の長さを測って書き表したりして、商品をそろえたり、在庫を管理したりしよう

(2) 本時のめあてと評価規準

児童	観点別の本時のめあて		評価規準
D	知	『附特マーケット』で、注文に応じて商品をそろえる時、乗法の式が表す意味がわかり、注文票を読み、“●個ずつ×いくつ分＝”と立式した後、具体物を操作して商品の総数を求める	「2. 展開」場面で扱う6問中3～6問目の4問を支援なしで正答する
	思	注文票の内容に応じて商品の総数を求める時、商品一つ分に含まれる数量を考え、用いる式を判断し、商品が同じ数量でまとまっているときは乗法で立式し、具体物を操作して答えを求め、商品が異なる数量でまとまっているときは加法で立式して答えを求める	「3. 発展」場面で扱う6問中3～6問目の4問を支援なしで正答する
	学	A3資料「4 題材計画」に記述した具体的な姿が見られたかどうかで題材終了後に評価を行う	
H	知	『附特マーケット』で、在庫の商品の長さを調べる時、単位が表す長さがわかり、cm表記の計器を使って商品の長さを測り、●m▲■cmと書き表す	「2. 展開」場面で扱う10問中6～10問目の5問を支援なしで正答する
	思	●m以上の商品や▲■cmの商品の長さを調べる時、商品の長さに応じた単位を考え、単位に応じた計器を判断し、●m以上の商品はm表記の計器を、▲■cmの商品はcm表記の計器を使って測り、商品の長さを書き表す	「3. 発展」場面で扱う10問中6～10問目の5問を支援なしで正答する
	学	A3資料「4 題材計画」に記述した具体的な姿が見られたかどうかで題材終了後に評価を行う	

(3) 場面設定と準備物

場面設定		
	<p>意図と工夫点</p> <p>課題に取り組んだ結果が関連づきやすくしたり、友だち同士で対話的に学習を進めたりすることができるように、教室の後方に設置した商品仕分け台でそれぞれの課題に取り組むようにした。その際、Dが総数を確認した商品を友だちが袋や皿に仕分けるように、間に空き机を設置した。また、Hは●mの商品を測りやすくするために、商品仕分け台の半分範囲を使うようにする。</p>	
準備物		
<p>教具名：かける君(D)</p> <p>意図と用途</p> <p>乗法の式が表す意味を理解することができるように、注文票を読み、被乗数や乗数を乗法の式に書き入れて立式したり、具体物を操作した後に答えを記入したりするために使用する。</p>	<p>教具名：かける君スーパー(D)</p> <p>意図と用途</p> <p>被乗数の数量と乗数の数量の関係を理解することができるように、それらの量と関係を視覚的に示したシート。乗法で立式した後に答えを求めるときや答えの正誤を判断するときに提示する。</p>	<p>教具名：商品</p> <p>意図と用途</p> <p>附特マーケットで販売する商品。計算や測定をする必要性をもつことができるように、注文票の内容に応じてそろえたり、長さを測ったりして使用する。</p>

<p>mm (ミリメートル) cm (センチメートル) m (メートル)</p> <p>10mm = 1cm 100cm = 1m</p>		
<p>教具名：単位換算表(H) 意図と用途 単位が表す長さを理解できるように、mと既習事項であるmmやcmの単位も含めて一覧で示したもの。単位が表す長さを確かめたり、単位を換算したりする際に使用する。</p>	<p>教具名：メートルはかり板(H) 意図と用途 cm表記の1mと2mの長さの計器。●m以上の商品の長さを測り、単位を換算して書き表すことができるように、●m以上の商品の長さを測る際に使用する。</p>	<p>教具名：cm表記の定規とm表記の定規(H) 意図と用途 cm表記の1m未満の長さの定規とcm、mどちらの表記もある1mの長さの定規。cm表記の定規は●m▲■cmの長さの商品の▲■cmの部分の長さを測るために、メートルはかり板と合わせて使用し、m表記の定規は、cmとmの長さの関係を確かめたりするために、メートルはかり板と合わせて使用する。</p>

(4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

児童			一次	二次			三次		
	時数		1	2	3(本時)	4	5	6	7
D	知識・技能	場面	注文に応じて立式や計算をして、商品をそろえる活動に興味・関心や見通しをもち、本題材の課題を知る	『附特マーケット』で、注文に応じて商品をそろえる時					
		わかること		乗法の式が表す意味 に目を向け がわかり		被乗数の数量と乗数の数量との関係 に目を向け がわかり			
	できた姿	注文票を読み、「かける君」を使って“●個ずつ×いくつ分＝”と立式した後、具体物を利用して商品の総数を求める	注文票を読み、“●個ずつ×いくつ分＝”と立式した後、具体物を利用して商品の総数を求める	注文票を読み、「かける君スーパー」や具体物を使って“●個ずつ×いくつ分＝”と立式し、商品の総数を求める	注文票を読み、“●個ずつ×いくつ分＝”と立式し、商品の総数を求める				
	思考・判断・表現	具体的状況	注文票の内容に応じて商品の総数を求める時				注文票の内容に応じて商品の総数を求める時		
	表出像	商品一つ分に含まれる数量を考え、用いる式を判断し、商品が同じ数量でまとまっているときは乗法で立式し、具体物を利用して答えを求め、商品が異なる数量でまとまっているときは加法で立式して答えを求める				商品一つ分に含まれる数量を考え、用いる式を判断し、商品が同じ数量でまとまっているときは乗法で立式し、商品が異なる数量でまとまっているときは加法で立式し、答えを求める			
	主体的な姿	粘り強さ	<input type="checkbox"/> 不正解のときに、立式し直したり、計算し直したりする展 発 <input type="checkbox"/> 立式や計算の仕方について友だちと話し合う展 発 <input type="checkbox"/> 自分が解いた課題について、どのように計算したか説明する終						
		学習調整	<input type="checkbox"/> 注文票の内容に応じて立式し、答えを求める課題に繰り返し正しく取り組む展 発						
H	知識・技能	場面	商品の長さを図って書き表す活動に興味・関心や意欲をもち、本題材の課題を知る	『附特マーケット』で在庫の商品の長さを調べる時					
		わかること		単位が表す長さ に目を向け がわかり					
	できた姿	計器を使って商品の長さを測り、●mと書き表す	c m表記の計器を使って商品の長さを測り、●m▲■c mと書き表す						
	思考・判断・表現	具体的状況	●m以上の商品や▲■c mの商品の長さを調べる時		注文に応じた長さで切り取った後の在庫品の残りの長さを調べる時		一つの商品の複数個分の長さを求める時		
	表出像	商品の長さに応じた単位を考え、単位に応じた計器を判断し、●m以上の商品はm表記の計器を、▲■c mの商品はc m表記の計器を使って測り、商品の長さを書き表す		切り取る長さについて考え、用いる式と単位を判断し、在庫品の元の長さで切り取る長さの単位をそろえて減法で立式し、在庫品の残りの長さを書き表す		用いる式を考え、商品の全長から用いる単位を判断し、乗法で立式し、商品の全長に応じた単位を用いて長さを書き表す			
	主体的な姿	粘り強さ	<input type="checkbox"/> 不正解のときに、長さを測り直したり、単位を確かめたりする展 発 <input type="checkbox"/> 教師や友だちの前で、学習した内容を発表する終						
		学習調整	<input type="checkbox"/> 目的に応じて商品の長さを調べる課題に繰り返し正しく取り組む展 発						

※「学びに向かう力・人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」の項目で観点別学習状況の評価のみを記載する。個人内評価をする部分については、授業の振り返りや個別の教育支援計画等で実施し、今後に反映することとする

(5) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ	
	D	H
1. 本時の活動とめあてを知る。 導	<p>○本時の活動に見通しをもち、めあてがわかるように、活動の流れと本時のめあてを掲示し、注文に応じて商品をそろえたり、在庫の商品の長さを調べたりする活動に取り組むことを知らせる。</p> <p>○注文の内容に応じて計算したり、長さを測ったりすることに意欲をもつことができるように、注文者を紹介したり、実績に応じて星のマークが増えていく社員証を配ったりする。</p>	
2. 注文票を読んで立式し、具体物进行操作したり、商品の長さを測って書き表したりする。 展	<p>○乗法で立式ができるように、“5個入りのりんごを3パックください”などの商品一つあたりの数量といくつ分かが表記された注文票を提示し、注文の内容に応じて商品の総数をそろえることを伝えて様子を見る。“●個ずつ×いくつ分”で、商品の総数を求めるための立式ができた場合には、一つあたりの数量が同じ商品の総数を求めるための式を立てることができたことを認め、式の数字と具体物を指し示しながら、式が表す意味を確かめた後、具体物进行操作して答えを求めることを伝える。</p> <p>・加法で立式する場合には、加法と乗法との違いがわかるように、かける君を提示して商品一つあたりの数量について問い、再度立式するように伝える。</p> <p>○不正解のときに、立式し直したり、計算し直したりすることができるように、誤答をしたタイミングで様子を見る。自分で課題をやり直し始めた場合には、課題に正答するまで取り組んでいることを認め、そのよさを知らせる。</p> <p>□不正解のときに、立式し直したり、計算し直したりしているか (粘)</p>	<p>○●▲■cmなどの1m以上の商品の長さをメートルはかり板で測り、mとcmの単位を使い分けて書き表せるように、商品の長さを測るように伝えて様子を見る。商品の長さを測り、在庫管理票に●m▲■cmと書き表すことができた場合には、商品の長さに応じた単位を用いて表せたことを認め、m表記の計器とメートルはかり板との長さを比較し、mが表す長さを意味づける。</p> <p>・●▲m■cmや●▲■mなどと書き表す場合には、書き表した数値や単位が表す長さで測った商品の長さが違うことに気づくように、単位換算表とm表記の計器やメートルはかり板を提示し、書き表した数値や単位が表す長さを確かめるように伝える。</p> <p>□不正解のときに、長さを測り直したり、単位を確かめたりしているか (粘)</p>
3. 注文票の内容に応じて立式して商品の総数を求めたり、商品の長さに応じた計器を使って長さを測って書き表したりする。 発	<p>○注文票の内容に応じて用いる式を判断できるように、“3個入りのももを5袋ください”や“4個入りと6個入りと5個入りのみかんをください”などの注文票を提示し、様子を見る。一つあたりの数量が同じ商品の総数を求める場合は乗法で、一つあたりの数量が異なる商品の総数を求める場合は加法で立式できた場合には、一つあたりの商品の数量に応じて立式できたことを認め、具体物を使って答えを求めるように伝えるとともに、乗法を用いるよさを意味づける。</p> <p>・一つあたりの数量が異なる商品の総数を求める注文に対して、乗法で立式する場合には、用いる式の違いに気づくように、商品一つあたりの数量について問う。</p> <p>□不正解のときに、立式し直したり、計算し直したりしているか (粘)</p>	<p>○●m以上や▲■cmなどの長さに応じた計器を用いて商品の長さを調べることができるように、商品とその長さを提示して様子を見る。●m以上の商品にはm表記の計器を、▲■cmの商品にはcm表記の計器を選んで測り、商品の長さを正しく書き表すことができた場合には、単位が表す長さに応じて計器を選んだことを認め、長さに応じて計器を使い分けるよさを意味づける。</p> <p>・m以上の商品をcm表記の計器で測った場合には、長さに応じて計器を使い分けるよさがわかるように、cm表記の計器で長さを測った後にm表記の計器で長さを測るように伝え、測りやすさの違いを問う。</p> <p>□不正解のときに、長さを測り直したり、単位を確かめたりしているか (粘)</p>
4. 本時の成果を振り返り、次時への意欲をもつ。 終	<p>○本時で学習したことを振り返ることができるように、自分が解いた課題について、どのように計算したか説明したり、教師や友だちの前で学習した内容を発表したりすることを知らせる。めあてに関わる内容の説明や発表ができた場合には、本時の課題を理解して取り組むことができたことを認め、そのよさを知らせる。</p> <p>○次時の学習に見通しや意欲をもつことができるように、次時の学習活動を伝え、本時を終える。</p> <p>□自分が解いた課題について、どのように計算したか説明しているか (振)</p>	
		<p>□教師や友達の前で、学習した内容を発表しているか (振)</p>